

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0790100739		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	グループホーム矢野目 吉		
所在地	福島県福島市南矢野目字上戸ノ内7-3		
自己評価作成日	令和3年1月26日	評価結果市町村受理日	令和3年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年3月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

あいの里の行事として、誕生日会・敬老会・クリスマス会を、入居者様に楽しんで頂けるよう、ホーム職員と本社で協力して計画し実践しています。今年度は、新型コロナウイルス禍の中、ご家族様を招待することができなかったため、リモートを活用し、ご家族様にも楽しんで頂きました。日常の中でも、一時的に外出など控えていましたが、畑で季節の野菜を育て収穫したり、少人数で花見などの外出を行ったり、ホーム外でバーベキューなどを行い、少しでも入居者様が笑顔で楽しく過ごして頂ける様に支援をさせて頂いています。また、季節の行事はホーム内でも、ソーシャルディスタンスを保ちながらスタッフと一緒にいき、入居者様に楽しんで頂きました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1.コロナ禍で地域住民参加の避難訓練の実施が難しくなっているが、運営推進会議委員の働きかけにより地域消防団の参加協力を得て、参加しやすい土曜日に訓練を行うなど工夫し、協力体制の構築に努めている。  
 2.看取りは、主治医・訪問看護師・職員が連携して行き、利用者が日ごろ口ずさんでいる歌を共に歌って寄り添うなど、暖かく見送るよう努めている。看取り後は直近の職員会議で振り返りをしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「お客様に対して誠心誠意のケアに努め、地域の方々とのふれあいを通じ、お客様の満足と信頼を得る」と事業所理念「地域の方々と協力しながら、入居者様に安心して笑顔で過ごして頂ける様に支援していく。」を理念として、実践している。毎日の申し送りの時や、会議の時に全員で唱和している。	法人理念を基に事業所理念を作成しており、理念は、毎月の職員会議やユニット会議、申し送り時に唱和し常に振り返りをしている。常に確認できるよう、玄関前の廊下へ掲示している。また、年度末の職員会議で見直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で地域との関りが少なくなっているが、地域包括と連携しながら、認知症カフェなどを行っている。	地域の方の踊り・音楽演奏等のボランティア訪問や神社の春祭りの子ども神輿見物、事業所芋煮会への参加等があったが、コロナ禍で自粛している。また、運営推進会議委員の紹介で地域消防団が避難訓練に参加協力を得ており、日常的な地域交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響で地域との関りが少なくなっているが、地域包括と連携しながら、認知症カフェなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、ホームでの会議の開催は行わず、会議の資料を配布し、会議のメンバーより意見を頂いている。実際に意見書を頂き、ケアに反映している。	定期的に開催していたが現在コロナ禍で休止中のため、資料を委員・家族へ送付し、書面で意見・要望をいただいている。委員からは、記録の記載方法への意見や地域消防団の紹介をいただき、消防訓練に参加協力を得る等、サービスの向上へ活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の入居者様がいるため、生活福祉課へ3か月に1度サービス計画書を提出している。 コロナに対する予防として、巡回指導をして頂いた。	コロナ禍で行政の会議が開催されないが、メール・ファクスでの情報提供や生活保護担当者の訪問がある。また、管理者は介護保険等の相談のため市担当課へ出向く時は、他の関係課へも立ち寄るなど関係構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を設け、毎月不適切ケアチェックリストを行い、予防に務めている。また、職場研修や内部研修が開催され、周知徹底・情報共有している。	法人の指針に基づいて、毎月管理者が法人本部の委員会へ出席している。事業所では、毎月ユニット毎に予防についての話し合いや不適切ケアのチェックリストで振り返りを行っているが、委員会記録が整備されていない。法人・事業所内で研修を実施し身体拘束をしない実践に取り組んでいる。	事業所内に委員会を立ち上げ、会議録を整備し、委員会代表者が法人本部委員会へ出席するなど、事業所の組織を作り上げることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正委員会の中での毎月不適切ケアチェックリストを行い、予防に務めている。また、職場研修や内部研修が開催され、周知徹底・情報共有している。全体会議の中でのヒヤリハット報告などで気になる点など話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に入居者様の身元保証人で、成年後見人の方がいらっしゃる、その都度アドバイスを頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と契約書の説明を行っており、ご家族様より疑問や不明点があった場合は説明を行っている。また、申し込みや実態調査の時点にも疑問等を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族様と電話にて連絡を取っている。その時などに、意見や要望を確認している。また、運営推進会議の際にも、意見書を送り、意見を頂く機会を設けている。	電話や面会時、運営推進会議から積極的に意見要望を聞くよう努めている。家族から家族負担の介護用品の使用量への率直な意見が出されたこともあり、改善策について全体会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場や個人面談の場で意見を聞く機会を設けている。特に全体会議では社長も参加して頂き、職員の意見を聞いて頂いている。	ユニット会議や全体会議で意見を聞くように努めている。また、年2回管理者・主任による面接を行い、仕事への取り組む目標や反省、意見・要望、個人の事情等を聞き取り、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月管理者会議を開催し、職場状況や職員の状況などを意見交換している。勤務状況は勤務表を見て把握している。定期的に事業所に訪問され、職員と会話し、必要に応じて話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、毎月の管理者会議を通して、職員に対しての情報を把握している。また、事業所に来られた際に話し合いなどで職員の状況等を把握している。法人内の研修は必要に応じて開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外での交流はコロナのため難しいが、会議などを通して法人内の他事業所との交流や勉強会を必要に応じて開催している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の際に、本人の要望などを確認している。その後、職員間で情報共有を行い、サービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の際に、ご家族の要望などを確認している。その後、職員間で情報共有を行い、サービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の際の確認と、担当のケアマネジャーや相談員がいれば確認を行い情報を共有し、サービスに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来ることはして頂き、出来ないことは見守りや声掛けをしながら、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度、ご家族へ状況の報告を行っている。また、通院などの協力を頂いている。入居者の状況に応じて連絡などを取り、協力を頂けることを入居の際に了解を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため面会は控えているが、電話などで会話できるように支援したり、1年の思い出をDVDとして贈らせて頂いている。	家族から情報を得て馴染みの美容室を利用している。地域の神社や花の名所へのドライブも感染症対策に留意して行っている。家族や知人の面会は現在コロナ禍で自粛しているため、利用者の様子をDVDにして家族へ送付し、関係が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、お手伝いなどの役割を通して関りが持てるように支援している。また、行事やレクリエーションなどの機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も状況の確認を行い、相談等があるか確認を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人と関りながら希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族様に協力を頂きながら検討している。	毎日の関わりの中での会話や仕草から、思いや意向を把握している。困難な場合は、利用者の生活歴や家族から情報をもとに、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時や実態調査の時に確認を行っている。入居後も、ご家族様や以前の相談員と連絡を取りながら、生活歴などを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様と関りながら、お手伝いをして頂いたり傾聴しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様がどのように生活をしていきたいか、本人に確認を取ったり、ご家族様や主治医、医療連携の看護師などに意見を頂き、職員でユニット会議で話し合い介護計画の作成を行っている。	入居時、1カ月分の介護計画を作成し、その後3カ月を目途に見直しをしている。居室担当者が、モニタリング票を作成し、ユニット毎にカンファレンスを行い、チームで介護計画を作成している。緊急時は、利用者の現状に合わせて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活記録シートや温度版、ヒヤリハットなどを記録の記入を行い、申し送りや会議などで情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具の販売事業所と協力し、エアマットや歩行器など必要な物の相談を行い、レンタルや購入などの意見を頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのため、外出を控えている。病院や美容院など必要な時は、電話等で密にならない時に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と連絡を取り、代理受診が可能な場合、代理にて受診している。受診が必要な時は、密を避けてご家族様対応にて受診をして頂いている。また、訪問診療が利用できる方は利用して頂いている。	入居時に利用者・家族の意向を確認し通院先を決めている。現在は、密を避けての受診や代理受診でコロナ対策を取っている。月2回の協力病院の往診が行われ、週1回訪問看護師と提携薬局による健康管理が行われ、利用者が適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約を行い、週に1回の医療連携を行っている。その都度、連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時と退院前に話し合いの場を設け、主治医・看護師・相談員・ご家族様と情報を交換し、退院に向けて受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に、重度化対応・終末期ケア対応指針をご家族様に提示し確認を取っている。また、状況に応じて、主治医を通して話し合いの場を設け確認と対応を行っている。情報の共有として、訪問看護ステーションの看護師とも連絡を取り協力を頂いている。	入居時に重度化対応・終末期ケア対応指針に基づき説明し同意を得ている。終末期に主治医から家族の意向を確認し、主治医・訪問看護師・スタッフが連携しチームで支援している。看取り後は、直近の会議で話し合い、振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、主治医・訪問看護ステーションと話し合い、対応の仕方を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・避難訓練と、年に1回ずつ風水害訓練と震災訓練を開催している。地域の方々の訓練の参加は難しい状況であるが、地域消防団と協力体制が取れるように連絡を取っている。	年間計画に基づき年2回総合避難訓練と火災・地震・風水害訓練及びAED研修を実施している。また、訓練は地域消防団の参加協力が得られやすい土曜日に行うなどの工夫をしている。3日分の食料と防災備品を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の話を否定せず傾聴し、丁寧な声掛けを行っている。また、ユニット会議の時に不適切ケアチェックリストを行い、職員間で見直しを行っている。	職員会議や内部研修で利用者を主体とした意識を持ち、ケアをしている。利用者の生活歴を理解し思いを受け止められるよう心掛け、目線を合わせ、声のトーンが高くならないように気を付けている。利用者一人ひとりの尊厳に努めている。個人情報には施錠できる書庫で適正に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムの時の飲み物や食事の献立、着替えの時に本人の希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、本人の時間やペースに合わせて行って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容の声掛けを行っている。また、化粧品が必要な入居者様の購入の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の下処理や畑の野菜の収穫などを一緒に行っている。また、入居者様と一緒に会話しながら調理を行っている。	利用者は、野菜の収穫や下処理・下膳・片付け等できる場所を行っている。職員は利用者の希望を取り入れた献立を作成し、一緒に食卓を囲み食欲を引き出す工夫をしている。食事中はTVを止め、クラシック音楽を流している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事や水分の摂取量を個別に記録記入を行っている。状況に合わせて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い支援している。本人の状況に合わせて、声掛けや一部介助など支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレの声掛けを行っている。排泄の記録を行っているので、入居者様やその時の状況に合わせて支援を行っている。	生活記録シートに水分量と排せつの記録を取り、排せつパターンを把握している。排せつは、利用者の主体に任せているが、定時や利用者の仕草から優しく声掛けしている。また、居室内トイレが分からない場合は矢印で示し、トイレでの排泄が継続できるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維物の食事や水分摂取の量や種類など工夫を行っている。入居者様によってはヤクルトやヨーグルトなど用意されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の場を設け、その時その時に入居者様の希望を確認し、入居者様の希望に合わせて入浴して頂いている。	入浴は、週3回を目安に午前・午後を実施し、希望に沿った時間帯で対応している。入浴を好まない方へは声掛けに工夫したり担当を変えるなどしている。菖蒲、柚等季節感のある物を活用し、ゆったり入浴ができるように支援をしている。お湯はその都度入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠パターンに合わせて声掛けを行い休んで頂いている。日中でも入居者様の眠気が見られた際は、声掛けを行い横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のお薬情報をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。薬の変更時は申し送りを行い情報共有を行っている。また薬局とも連携を取っており、変更時のアドバイスを頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事を入居者様と一緒に楽しんだり、入居者様に合わせて役割やノンアルコールビールなどの楽しみを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、人込みなどに注意し散歩やドライブ、美容室の支援を行っている。ご家族様とも連絡をとりながら、その都度の状況に合わせて支援している。	一人ひとりの習慣や趣味に合わせて、近隣の散歩や畑仕事を行ったり、四季を感じられるようにドライブに行く等、コロナ禍においても工夫して外出支援を行っている。季節の行事も駐車場でバーベキューを行う等の工夫をし、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭の持ち込みはしていないが、買い物などは、ホームの立替金をご用意し、買い物などの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から連絡が来たときなど、ご家族様とお話をして頂いている。また、電話を希望される入居者様には、連絡できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が季節感が感じられるような季節の飾りなどを飾っている。また、感染症対策として室温・湿度・換気に十分に気を付けている。	居間・廊下に季節感のある飾りや草花の写真等を飾り、ソファを配置し一人ひとりの居場所が作れるよう配慮している。また、職員は、食堂にビニールシートを貼り、1日2回の換気や適切に温度・湿度を管理するなどコロナ禍の安全管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が好きなようにテーブル席やソファで一人でくつろいだり、他入居者様とお話できるような声掛け、環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者様が入居前に使っていた家具や衣類、食器などを持って来ていただき、少しでも以前のような生活をして頂けるようにしている。	居室にはトイレ・洗面所・ベッド・エアコン・クローゼットがあり、利用者は馴染みの家具・TV・食器・家族写真・位牌等を持ち込み、使いやすいように配置している。新聞も個人購読ができる等入居前の環境を変えないような配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の必要に応じて居室に手摺りが設置してある。また、共有スペースでは入居者様の状況に合わせて肘掛け椅子などを用意してある。		